

# ともに・・・

R7. 9. 25

自ら考え挑戦し ともに高め合う 北杵築っ子の育成

## 目を見張します ～チャレンジ1年生！～

1年生は、入学して半年が経とうとしています。今は、小学校生活初めての運動会に向けて、練習に励んでいるところです。

練習と並行し、他の学習にもがんばりを見せていました。先日、1年生の教室を覗いてみると、漢字の学習に取り組んでいました。1年生は、入学して間もなく、鉛筆の持ち方や書く時の姿勢を学ぶとともに、初めてひらがなの読み書きを学びます。子どもたちの書く初めてのひらがなは、線にまだ力強さはありませんが、一生懸命さがにじみ出でていて、感動すら覚えるものです。

その1年生も、全てのひらがなの学習を終え、2学期に入ってから、漢字の学習が始まったようです。

この日、教室では、それまでに学習した一から九までの数字を表す漢字の復習で、先生が黒板に書いた漢字の問題に、子どもたちはチャレンジしています。みんな自信満々な面持ちで黒板に向かい、分担してチョークで漢字を書いています。全員間違なく漢字を書けました。とても立派です。

しかし、そこで終わりではありませんでした。先生が、「指で宙に漢字を書いてみましょう」と、子どもたちに投げかけます。みんな人差し指を体の正面に差し出し、先生の「いち・に・さん・・・」の声に合わせ、一画一画指を動かします。“一・二・三”の漢字まで、みんな正しく書けました。次は“四”。先生も指を動かしながら、同時に子どもたちの筆順も見ています。残念・・・。三画目の筆順が違っている子がいたようです。先生は、それを見逃さず、子どもたちに正しい筆順を再度指導します。そして、筆順が正しくなるように、また指で書くことを繰り返しています。このように、漢字の“読み”とともに“書き”も確実に定着するように、繰り返し丁寧に指導しています。



半年間で、多くの文字を習得してきた1年生。短期間での子どもたちの成長ぶりには、目を見張るものがあります。

文字の世界が広がれば、読む世界や書く世界も豊かな広がりをみせてくれます。

## 「じいちゃんが、うれしそうな顔でした…」

### ～伝統「若宮楽」を引き継いで～

9月14日（日）は、若宮八幡神社で、『若宮楽』が行われました。これは、毎年若宮八幡社の仲秋祭で行われる、県指定無形民俗文化財の“子ども楽”で、室町時代に始まった長い歴史のあるものなのだろうです。そして、この『若宮楽』には、杵築小学校と北杵築小学校の子どもたちが、参加しているということです。

今年は、北杵築地区からは、本校の児童を含めたら人が参加し、夏休み中旬から、地域の方と一緒に練習を始めました。

いよいよ当日。衣装を身にまとった子どもたちが、神社下にやってきて、2列に並びました。子どもたちの面持ちは、ちょっと緊張しているようです。

しばらくして、お囃子が始まり、お囃子に合わせて、子どもたちは舞を始めます。舞いながら境内へ移動し、今度は円になって舞が始まります。

子どもたちは、右に左にぴょんと一歩ずつ跳んだり、体の向きを右に左に変えたり、前や後ろに移動したりしています。と同時に、胸元に下げている太鼓を両手で打ち鳴らすのです。しかも、どのタイミングで左右のどちらの手で打つかが決まっているようです。

このような複雑な舞ですが、どの子も身体が覚えてしまっているようで、お囃子に合わせ自然と身体が動いています。きっとたくさん練習してきたのでしょう。子どもたちの舞は、全員の動きが揃ったもので、大変すばらしいものでした。

後日、舞った子どもたちに、感想を聞いてみると、「太鼓を叩いて踊るのが楽しかった」「いっぱい見に来てくれて、本気でがんばった」とお話してくれました。また、日記に、「きんちょうしたけど、うまくおどれました」「じいちゃんが、うれしそうなかおでした」と、書いていた子もいました。

『若宮楽』は、北杵築地区に住んでいるからこそ体験できる貴重なものです。また、練習時も含め、子どもたちと地域の方との大切なふれあいの時間にもなっているようです。子どもたちにとって、この経験は、大事な思い出の一つとなったにちがいありません。

